

樹脂ワックス(水性フローポリッシュポリマータイプ)の使用法について

※ 樹脂ワックスを塗布する場合は、天気の良い日を選び、風通しを良くしてください。

なお、室温が5℃以下の時や、雨天で湿度が極端に高いときは、樹脂ワックスが白化したりすることがありますので、塗布は避けてください。

※ 剥離剤は木質床材の表面塗膜を侵しますので、使用しないでください。

■ポリッシュ塗布前の洗浄

手 順	作 業 方 法	注 意 事 項	予想されるトラブル
1 床表面の除塵	・ホウキ、掃除機などで床面のゴミなどを取り除く。	・ゴミと一緒に洗浄すると、洗浄後にゴミの再付着が発生する	・ポリッシュ皮膜仕上がりが状態不良
2 養生	・汚れが他所(幅木、沓ズリ、壁等)に飛散しないよう養生する。	・養生テープは各建材メーカー指定のものを使用する。	・洗浄時の汚水の飛散による汚れの再付着。 ・養生テープによる化粧面の剥離・汚染
3 洗剤液を作る	・床面積に応じて作る。 (使用の目安は希釈液で10ml/m ² 以下) ・使用する床用洗剤に指示されている希釈倍率に従って計量カップ等により正確に薄める。	・洗剤液の入った容器などを直に床面に置くと容器から液が垂れ落ちて跡形になって残るので、必ず容器の下にビニールシート等を敷いてから置く。 ・使用する洗剤液で予め目立たないところで試験洗いを(洗剤の液性は、中性～弱アルカリ性の領域が適切です) ・洗剤液が濃いと泡立ちが多く、薄いと洗浄力が低下する。	・床に容器の跡形が残る ・床材の変色 ・洗剤液で跡形が残るようであれば洗剤が適さないか、ポリッシュを塗布できない事も考えられるので塗布はさけてください。 ・作業性が悪くなる
4 床面の洗剤拭き	・専用モップに洗剤液を含ませて、固めたモップをしぼり汚れを拭き取る。 ・汚れが落ちにくい部分は、雑巾又はスポンジタワシ等で汚れを除去する。	・施工後の床材の表面には、汚れや油分が付着しているため、新しく塗布するポリッシュの皮膜が、より床面に密着するように洗浄する。 ・水や洗剤液を床面に多量(モップから液が垂れる状態)に使用するとトラブルが発生するので、固めに絞って洗剤拭きをする。	・ポリッシュのハジキや皮膜の白化 ・床材の反り、突き上げ、ふくれ、変色
5 洗剤を水拭きする (洗剤液を拭き取る)	・床面の洗剤が乾かないうちにきれいな水を含ませた固く絞ったモップで2回程度水拭きする。(洗剤液を塗布したモップは使用しない)	・木質床材表面に残った洗剤分を完全に拭き取る。 ・床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取る。	・ポリッシュのハジキや皮膜の白化
6 乾 燥	・床面を充分乾燥させる。	・部屋の風通しを良くし、床材の目地まで充分に乾燥させる。 ・乾きにくい場合には送風機などを使用する。	・床材の損傷やポリッシュ皮膜の仕上がりが状態不良

■ポリッシュの塗布

※ 木質床材に適したポリッシュを使用してください。なお木質床材にはワックスと適合しにくい(ワックス不要の)タイプもありますのでご注意ください。

手 順	作 業 方 法	注 意 事 項	予想されるトラブル
1 作業時の気温	・床面、室温、ポリッシュの液温が5℃以上であることを確認する。	・床面もしくは気温やポリッシュの液温が5℃以下の時はポリッシュの塗布を避ける。	・ポリッシュ皮膜の白化や粉化
2 ポリッシュの選定	・木質床材に適したポリッシュを使用する。	・ポリッシュの選定については、ポリッシュメーカーに木床への適否を問い合わせ確認する。 ・塗布前に予め目立たないところで試験塗りをする。	・ポリッシュのハジキや皮膜の密着不良
3 ポリッシュの小分け	・きれいなバケツなどに、塗布するのに必要な量のポリッシュを入れる。 (目安として1ℓで約120m ² 塗布)	・ポリッシュの入った容器などを直に床面に置くと、容器から液が垂れ落ちて跡形になって残るので、必ず容器の下にビニールシート等を敷いてから置く。	・床に容器の跡形がのこる

4 専用モップに含ませる	<ul style="list-style-type: none"> 水洗いし良く乾燥させた専用モップを、ポリッシュを小分けした容器に漬けて、やや絞り加減にモップを絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいモップの場合、糸くずが膜の中に入る場合があるので、事前に十分に水で洗って、糸くずを取ってから水を切って乾燥させたものを使用する。 塗布用のモップは洗浄用、水拭き用と兼用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥皮膜にゴミが付着し、見苦しくなる 塗りムラの発生
5 ポリッシュの塗布	<ul style="list-style-type: none"> 専用モップに含ませたポリッシュを木目に沿って薄くムラなく床材の目地に溜まらないように塗布する。 ポリッシュの塗布量は、1回塗りにつき、1ℓで約120㎡が最適です。 	<ul style="list-style-type: none"> 直接床にポリッシュを撒いて塗布すると、不具合が発生するので行わない。 塗布量が多いと床に不具合が発生するので、塗布する時は、モップからフローアポリッシュが滴り落ちないようにやや絞り加減で塗布する。 隅の部分は厚くなりやすいので、特に注意して全体に薄く塗布する。 木床の継ぎ目にま、ポリッシュが溜まらないように注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 床材の膨れ、汚染、床鳴り 床材の膨れ、汚染、床鳴り 隅に皮膜が堆積する 床材の膨れ、床鳴り
6 乾燥	<ul style="list-style-type: none"> ポリッシュを塗布した床面を充分乾燥させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 塗布量が多すぎるとポリッシュの乾燥が遅くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ポリッシュ皮膜の白化 仕上がり状態不良
7 再塗布	<ul style="list-style-type: none"> 光沢が不十分であれば、充分に乾燥した後、再塗布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 皮膜が充分乾燥しないうちに重ね塗りとすると、先に塗った皮膜に悪影響を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 再乳化によるポリッシュ皮膜の白化 光沢や皮膜強度の低下
8 最終乾燥	<ul style="list-style-type: none"> 塗り終わったら、充分時間をかけて床面を乾燥させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 塗布後濡れた状態では、送風機による強制乾燥はしない 送風機は、表面が乾燥してから使用する。 冬場の室温が低いとき(室温が5℃以上の場合でも)は暖房を入れて充分乾燥させる。 雨降りなどで湿度の高いときは乾燥しにくいので、風通しを良くし充分乾燥させる。 完全に乾くまで歩かない。 	<ul style="list-style-type: none"> 造膜不良によるポリッシュ皮膜の白化、仕上がり不良 滑り、仕上がり不良
9 終了、後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用したモップやバケツなどは、作業が終わったらすみやかに洗って、清浄な状態で保管する。 	<ul style="list-style-type: none"> 缶から出したポリッシュは、元の缶に戻さない 	<ul style="list-style-type: none"> ポリッシュの変質

※ポリッシュの粉化の原因としては、異常低温、異常乾燥(早すぎる乾燥、乾燥不良)、洗剤分の残留、床材に対する密着不良等がある。

■ポリッシュ皮膜の白化、ハジキ、密着不良等の手直し方法(出来るだけ速やかに行ってください)

※剥離剤は木質床材の表面塗膜を侵しますので、使用しないでください。

※ポリッシュメーカー指定の業務用弱アルカリ洗剤を使用してください。中性洗剤では除去できません。

手順	作業方法	注意事項	予想されるトラブル
1 洗剤液を作る	<ul style="list-style-type: none"> 前述と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 前述と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 前述と同じ
2 皮膜の除去	<ul style="list-style-type: none"> 専用モップに洗剤液を含ませて、白化した皮膜等に塗布する。(塗布量の目安:10ml/㎡) 塗布後、スポンジタワシで皮膜を擦り落とす。 	<ul style="list-style-type: none"> 木質床材の表面を傷つけないようにする 床全面を一度に作業せず、約1~2㎡ぐらいを一つの区切りとして作業する。 	<ul style="list-style-type: none"> 木質床材の損傷 汚れの再付着
3 洗剤を水拭きする	<ul style="list-style-type: none"> 床面の洗剤液が乾かないうちにきれいな水を含ませた固く絞ったモップで2回程度水拭きする。(洗剤液を塗布したモップは使用しない) 	<ul style="list-style-type: none"> 水や洗剤液を床面に多量(モップから液が垂れる状態)に使用するとトラブルが発生するので、固めに絞って洗剤拭きをする。 木質床材表面に残った洗剤分を完全に拭き取る。 床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 床材の反り、突き上げ、ふくれ、変色 ポリッシュのハジキや皮膜の白化
4 乾燥	<ul style="list-style-type: none"> 床面を充分乾燥させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の風通しを良くし、床材の目地まで充分に乾燥させる。 乾きにくい場合には送風機などを使用する 	<ul style="list-style-type: none"> 床材の損傷やポリッシュ皮膜の仕上がり状態不良

日本防音床材工業会

事務局: 〒550-0013 大阪市西区新町3-7-15(新町ビル307号)
TEL:06-6539-5570 FAX:06-6539-5571

防音フローリングの生活情報サイト

<http://www.iafma.gr.jp/>

日本複合床板工業会

事務局: 〒135-0033 東京都江東区深川2-5-11(木材会館5階)
TEL:03-3643-2948 FAX:03-3643-2990

お問い合わせは

日本フローア^oポリッシュ工業会

事務局: 〒112-0013 東京都文京区音羽1-22-18(アルス音羽II-213)
TEL:03-3944-5861 FAX:03-3944-5916
